

## 科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合 議事概要

日 時 平成 22 年 11 月 18 日 (木) 10 : 00 ~ 10 : 30

場 所 合同庁舎 4 号館 742 会議室

出席者 相澤議員、本庶議員、奥村議員、青木議員、中鉢議員、金澤議員、泉統括官  
梶田審議官、岩瀬審議官、大石審議官

### 議事概要

#### 議題 1 . 平成 23 年度科学技術関係予算の編成に向けた総合科学技術会議の対応について

##### <事務局 資 - 1 について説明>

中鉢議員 これは総合科学技術会議が発するものであることは理解するのですが、誰に対して何を期待して出されるものなののでしょうか。

相澤議員 各府省に意見具申という形になりますので、総理を議長とする総合科学技術会議名で各府省に具申されるということです。

中鉢議員 そうするとコメントは、1つ目の のところでは、各省は科学・技術に必要な予算をきちんと確保しろというのがメッセージですか。

事務局 そうです。

中鉢議員 2番目は、質を高くしろということですか。

事務局 予算の中身の質をきちんと高くすることとあとはP D C Aサイクルをきちんと回すこと。この2点が主なことになっております。

中鉢議員 ここに書いてあることは、質に対しては、総合科学技術会議も優先度判定をしたので、それに基づいてきちんとやれということですね。

事務局 そうです。

中鉢議員 3つ目、4つ目になってくるとだんだんわからなくなってくるのですが、3つ目はアクション・プランによって誘導とありますが、時系列的にいうとこちらのほうが先ですよ。なぜここでアクション・プランによって誘導ということが出てくるのですか。政策誘導をしたこのことの後には、また重要事項と言って、中長期的な観点が大事だということで、もう一回考えさせています。中長期的観点がとか、類似の整理統合をやれとか。それは全体のプロセスの前で明らかにされたことなので、各府省の単独のところで、もう一度これをやれと指示するという具申はいかがなものかと私は思います。

また、何かぐるぐる回りをしているような感じがします。ここで言うべき、このタイミングで出すべきは、何よりもまして、科学・技術は大事だよ、忘れなさんなよということを中心に有識者の立場で言うべきで、中長期観点からしても投資である、今日的な経済環境に左右されてはいけないと。そういう意味でいくと、「知の大競争時代」、「新興国」というのがいきなり入ってきて違和感があります。いろいろなことが書いて

ありますが、メッセージ、何を言いたいのかがいささか不明瞭であると思います。

岩瀬審議官 ちょっと補足します。基本的に言いたいことは大きく3つあると思います。最初の1点は、最初の の一番最後の行に書いてある、財政状況は厳しいけれども科学・技術については必要な額を確保しなさいと。財務大臣も含めて要求する額、両方に言っていると。ここには金をつけるように努力してほしい。

2番目は、優先度判定をしましたので、総合科学技術会議、質を高めて反映させていただきたい。その質の高い予算の中に主要な要素としてアクション・プランが論理的に入るのですが、アクション・プランは今年が目玉、トピックなので、別項を起こしたらどうかという意見があるものですから、別項を起こしたら例えばこうでしょうかと書いてあります。

3番目は、今までの2つが断然に大きいメッセージですけれども、額を確保してくれ、優先度判定を踏まえて中身をちゃんといいものにしてくれ、ということです。3番目はそれに加えて、重要な予算の査定をする。あるいはまとめるときに、あるいはそれ以降に向けて留意してほしいその他の重要事項を付言したということになっています。

本席議員 私も順番として、まず最初は総論として、中長期的な成長戦略推進のための投資である。これはもう間違いないと思います。2段目と3段目は、順番が逆ではないかと思えます。つまりこのためにアクション・プランをやり、無駄を省き、中長期的な1つのモデルケースを示した。さらにそれに基づいて、S、A、B、Cもやった。それを受けて、各省はこれを尊重してきちんと優先度判定になるべく沿うような施策をやってくれと。PDCAサイクルを回してくれと。一応そういう3段論法ではないかという気がするので、ちょっと2番目と4番目が離れていて、論理のつながりが悪い、そういう感じではないかと思えます。

相澤議員 そうですね。

岩瀬審議官 考え方としては、2番目と3番目を再構成するということによろしいでしょうか。

本席議員 2番目は結局アクション・プランを代表として我々はこういう努力をしてきた。そのアウトプットとしてS、A、B、Cのものがありますよ。それを受けて各省はそれをきちんと活かすようにやってくれというのが、今ある2番目の項目と4番目の項目になるかなという気がするんです。

岩瀬審議官 2番と3番ではないですか。2番と3番を組み合わせ、アクション・プランを述べて、その後に優先度判定を書いて、こういう努力をしているので、それをちゃんと踏まえて質を高くしてくれと。

本席議員 そうですね。優先度判定が今は2番目のところに入っているから、ちょっとそこが。

岩瀬審議官 時系列的にアクション・プランを先に書くということですね。

中鉢議員 検討してください。4番目のところですが、2番と3番を踏まえた上でさらにこれを言うのかどうかです。総合科学技術会議が各府省に指示したと非常に重複するわけですが、例えば実効的な府省連携の推進ということを予算編成に向けた要求事項として出す意味合いはどのようなものなのでしょうか。これはどこで実効的な府省連携の推進の活動をしていただきたいと具申しているのでしょうか。

岩瀬審議官 これは全体は予算編成の話ですが、4番だけは、予算編成・執行ということで、予算がついてその後に執行に移るわけだけれども、そこも含めて、こういうこと、予算の編成だけではなくて、この執行の段階も含めてこういうことをやっている。ここだけ少し編成より先のこととあわせて書いてあって、ちょっと書き方はここだけ変わっています。それでよろしいかどうかということです。

奥村議員 最初の項目は一般的なことが書いてあります。ですから、ほとんどメッセージがなく、私はむしろここは23年度予算編成に向けて言っているんで、予算執行における特記事項として、PDCAサイクルを回す、このことは23年度からの新しい4期基本計画に入っているんで、これをきちんとやるということを最後に1つ入れたほうが、メッセージとしては伝わるのではないかと思います。質の高い予算の編成のところに記述する話ではないので、PDCAサイクルは、むしろ2番目の から省いて一番下に持ってきて記述すべき。一般的な府省連携だのというのは、もうこれはやめる。これは毎年書いていることで、何のメッセージもない。というのが私の意見です。PDCAサイクルだけ活かす。これは4期計画に書いてあるが、具体的な仕組みをこれから作る段階です。

相澤議員 そういたしますと、今いただいた意見をまとめると、 の1の部分、何を入れるかはもう少し後で検討することにして、1つ目の がまずあってその次に2つ目、3つ目の が逆転するという位置づけですね。その中の2つ目の の最後のポツ、これは今4番目の にあるところを何という表現にするかはあれですが、執行における特記事項、重要事項という形にして、PDCAサイクルのところをそこに移すという、こういう構成ということでもよろしいでしょうか。

事務局 府省連携のほうは。

奥村議員 もう私はいらなと思いますよ。いつも同じことを書いていて、もうこの時点で府省連携になるように予算編成をやってきたわけです。ですから、この段階で改めて言っても、どれだけ効果が挙がるのかと。むしろPDCAサイクルは新しい4期の1つの大きなコンセプトになるので、これを政策ツールにするようにきちんと回さなければいけないので、特記事項にしたほうが、むしろメッセージとしてはクリアではないか。

相澤議員 ですから、最後のところの特記事項は、編成のプロセスのところよりは執行のプロセスにおいて何が重要かということ絞ったほうがいいということですね。

奥村議員 そうということです。

相澤議員 よろしいですか。

本席議員 府省連携なんかは逆に言うとアクション・プランの中で、それを指導してきたんだと。

中鉢議員 そのとおりにやれと。PDCAでちゃんと見るからなと。

奥村議員 府省連携はそうですね。

青木議員 細かいことなんですけれども、この上の科学・技術振興に必要な予算の確保に努めることが不可欠、と書いてあるんですけれども、確保が不可欠にしたいなと思うんですけれども、と言うのは、この前、私は唖然としたんですけれども、国立社会保障・人口問題研究所が平成20年の社会保障の実績を計算したら、社会保障費が99兆円で、年金が49兆円だったんです。それに対して、科学技術予算というのは、国民全員が恩恵を受け

るのに、海江田大臣が言っていらっしゃる目標が 25 兆円というのに唖然としました。年金というのは誰も確保に努力するとは言わなくて、確保が不可欠と言っているの、我々科学技術予算は国民全員のためなので、確保に努めるではなくて、確保が不可欠と。

中鉢議員 いいですね。

青木議員 昨日、若杉基本専門調査会委員がほかの予算と比べて 25 兆円がおかしくないとおっしゃっていたんですが、本当にそうだと思います。年金は大切ですけどもね。

中鉢議員 これだと確保しなくても努めればいいと。

青木議員 年金のことは誰も努めるとは言わないです。

岩瀬審議官 ごもつものなのですが、事務的に若干補足しますと、これは財務大臣も含めて本会議で決定しますので、合意しないと決定されないという事情がございます。

青木議員 そうですけども、全体のバランスから一度指摘するべきことだと私は個人的に思うので、私個人の意見でも結構です。

相澤議員 ただいまの件は、いつもこの内容の議論のときに出てくる問題でありまして、基本的な姿勢としては今青木議員が言われたようなところがあるのですが、最後、そのところでそういう形で合意がとれるかどうかということは次のステップだと思います。

青木議員 もちろんそうだと思います。

金澤議員 別なところで小さなことかもしれないのですが、この紙の中に科学・技術がどこにもない。新成長戦略というのを踏まえというふうに書いてあるけれども、ついに消えてしまった。どういうことなんでしょうか。前回の話から考えますと、意図的に切ったとしか思えない。法律以外は「・」を入れるということになっていたはず。

相澤議員 これは、そういう、科学・技術。ただ、科学技術基本計画とかそういう法律用語はそのままという取扱いをお願いします。

全体の構成を主たる が3つと最後にまとめというような意味で重要事項という形で指摘しておくという構成ということですが、それぞれの の中に、「・」として入っている事項について、先ほどの青木議員のご意見のようなことがございましたらお願いいたします。

それでは、ただいま全体の流れが大体できましたので、それに沿って原案を策定していただいて、次回にそれをお願いしたいと思います。それまでにもしご意見がありましたら。

本席議員 できたら、次のバージョンを早めにメールで送っていただいたほうが、あとはワーディングの問題になるから、ちょっと前もって見ておかないと、ここでパッと見てというよりはいいのではないかと思います。

事務局 では、メールで、させていただきます。

相澤議員 それでは、よろしいでしょうか。その間、ご意見、お気づきの点は事務局にお願いしたいと思います。

## **議題 2 . 最先端プログラムの平成 21 年度業務報告について**

(正式決定前の案件であるため非公開)

(以上)